

米子湾における魚類のへい死に関する情報提供

状 況 平成24年9月19日（水）

19日14:00頃 出雲河川事務所発注の中海宍道湖水質管理業務の請負業者である（公財）島根県環境保健公社が調査を実施中に、米子湾観測所付近の沿岸100mの範囲で魚類の大量へい死（約700～1,000匹）を確認しました。なお、魚種は、ボラ、スズキ、ハゼが確認されており、腐敗が進んでいる状況です。

発生場所 安来市島田町地先（別紙参照）

発生原因 調査中

米子湾観測所の自動観測データより、9月17日から18日にかけて上層・下層ともに貧酸素状態であり、米子湾内に貧酸素水が入ってきた可能性が高いと考えられます。

今後の対応 引き続き、国土交通省において状況の確認を行うとともに、島根県水産技術センターにおいて、魚病検査を実施する予定。

提供先

島根県政記者クラブ、松江市政記者クラブ、出雲市政記者クラブ、米子市政記者クラブ

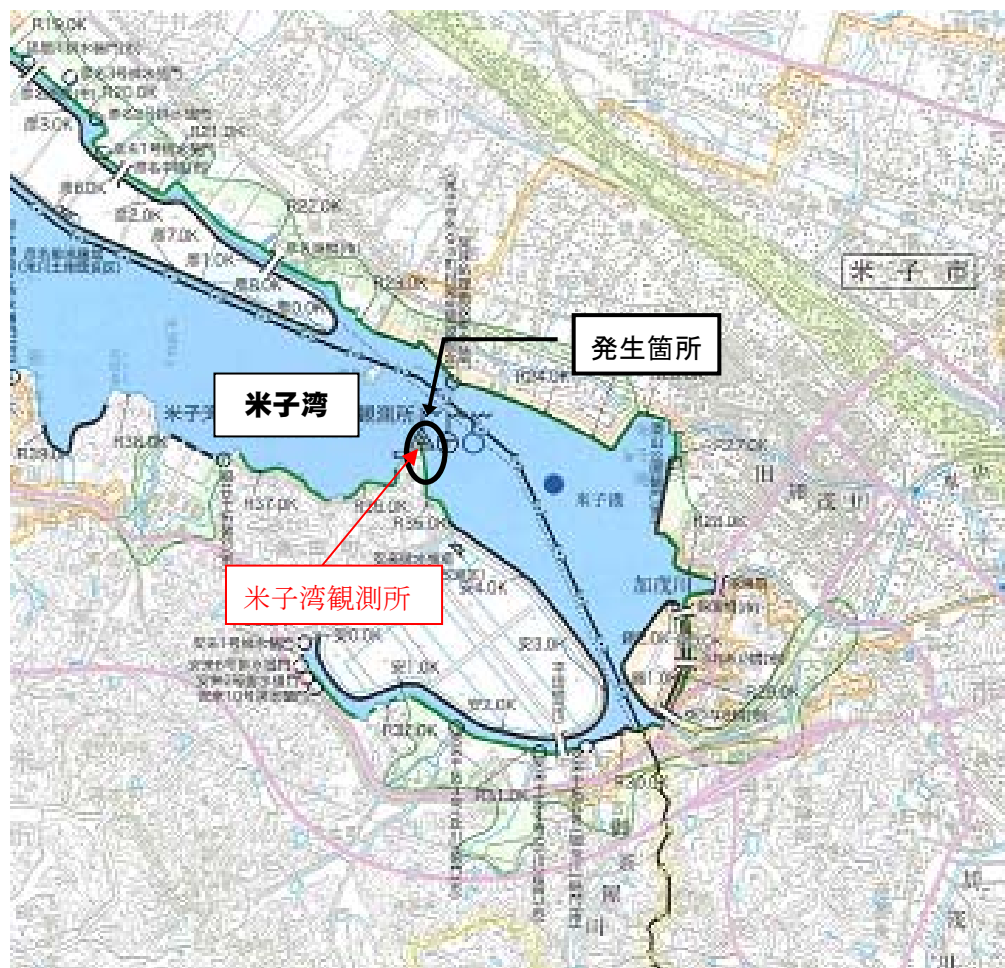
問い合わせ先

国土交通省 出雲河川事務所 水環境課

電話 0853(20)1763

水環境課長 伊藤 健

位置図

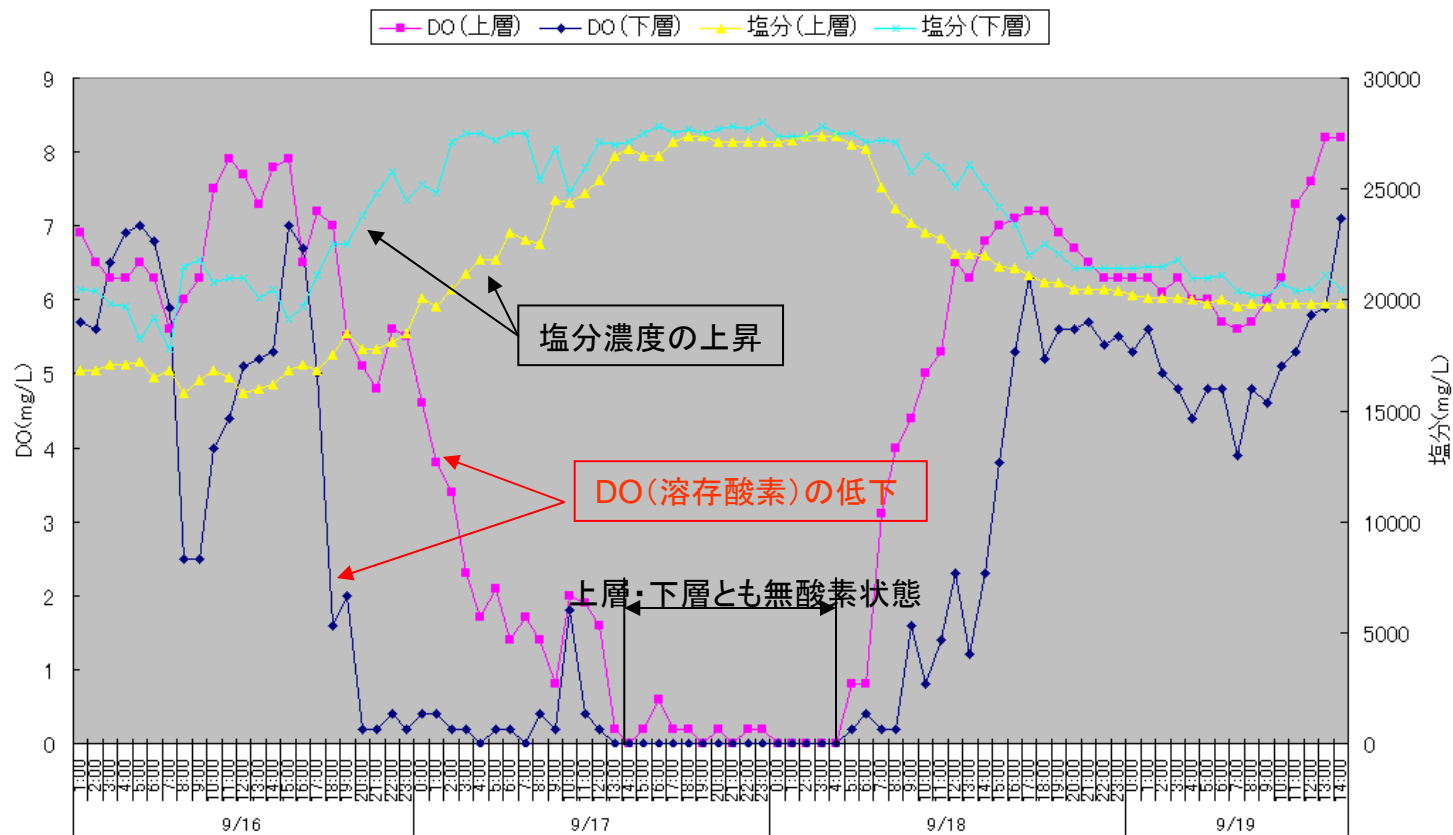


魚のへい死状況写真



参考

米子湾観測所 水質データ



9月16日16:00頃から下層DO(溶存酸素)が低下、その後、9月17日13:00頃には上層DOも低下し貧酸素状態となった。一方、上層及び下層の塩分濃度は、9月16日12時頃から上昇し、9月17日10時頃には上層・下層ともほぼ同一濃度となった。従って、貧酸素化した塩分の高い水が、米子湾に進入し、全層にわたり貧酸素が発生、これにより、魚がへい死した可能性が高いと考えている。